

薩摩硫黄島，硫黄岳山頂火口の地形変化

1990 年代前半に山頂火口底に形成された噴気放出孔（以下火孔）は，その後次第に拡大している．この変化は，降灰活動とも関係しており，推移に注目してきた．地形変化は，写真解析や簡易地形測量により把握しているが，盛大な噴気と離島火山の事情で 1997 年以降，2001 年と 2003 年の 3 回の計測にとどまっていた．2006 年 10 月に視界良好な空中写真¹⁾を入手できたので，火孔縁形状を把握した（図 1）．ここ数年は，火孔南半部で拡大が進行しており，山頂火口南縁の道路の一部は火孔内に崩落している．

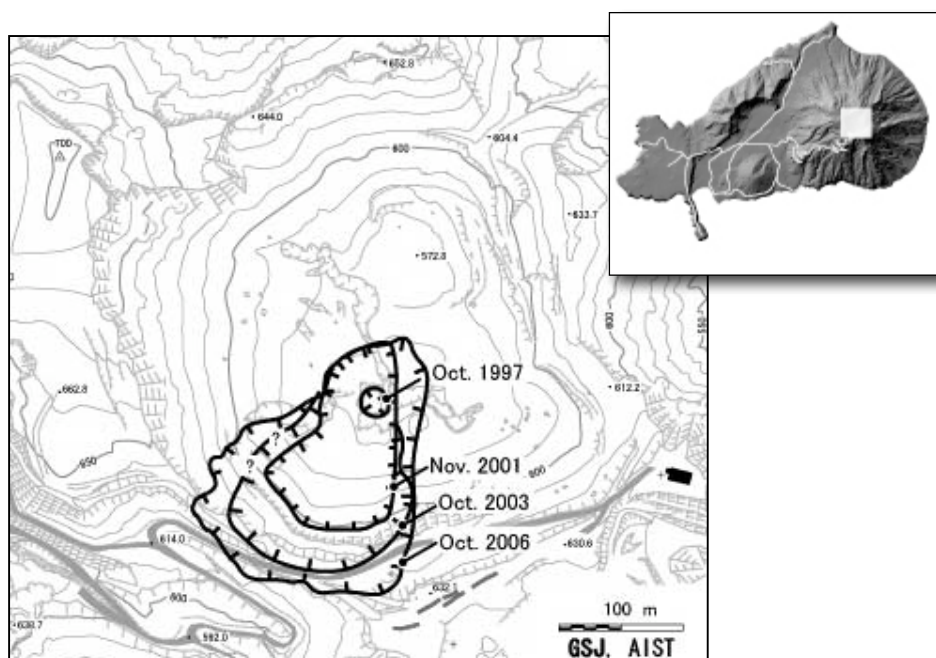


図 1 硫黄岳山頂火口内の火孔縁の拡大状況
基図の地形は，1997 年 10 月時点

- 1) 2006 年 10 月 7 日，海上保安庁海洋情報部撮影の斜め空中写真．
地形計測のために快く提供頂きました．記して感謝します．